

米軍F15 戦闘機墜落について、事故原因の徹底究明と自衛隊F15 戦闘機の訓練中止、訓練移転の中止を求める

自衛隊小松基地司令 山本祐一 殿

2013年5月29日 日本共産党加南地区委員会

委員長 西村 祐士

小松市議会議員 橋本米子

マスコミ報道によると、昨日午前9時頃、沖縄県東南海上において、在沖縄米空軍嘉手納基地所属のF15戦闘機が墜落したとのことである。したがって今回の事故原因の徹底究明を求めるとともに、同機種である自衛隊小松基地所属のF15戦闘機の訓練、及び、訓練移転の中止を求めるものである。

そもそもF15戦闘機はこの間、2006年（米軍機）、2011年（自衛隊機）でも墜落事故を起こしており、きわめて重大である。沖縄県の琉球新報では「構造的な欠陥も疑わざるを得ない」とまで述べている。自衛隊機では導入以来12機を事故で失っている。今回の事故が米軍機であるということで決してすまされない問題である。

言うまでもなく、小松基地では度重なるF15戦闘機の事故と騒音により、周辺住民が大きな被害を受けてきた。2011年10月には燃料タンクの破裂事故があり、一つ間違えば住民の生命にかかわる大変重大な事故だった。一方騒音被害は「受忍限度を超える」と、裁判でも指摘されてきた。これ以上の被害は絶対に受け入れられない。したがって、今回の事故原因の徹底究明を求めるとともに、原因究明のないまま、小松基地所属のF15戦闘機の訓練や「訓練移転」にともなう訓練が行われることのないよう強く申し入れるものである。